資料－1

平成15年度 北陸地方建設事業推進協議会

建設技術報告会

実施報告書

平成15年11月

北陸地方建設事業推進協議会
建設技術報告会実行委員会

目　　次

１．開催概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

２．実施内容　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4

３．準備及び運営　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　6

４．広報　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　12

５．アンケート　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　15

６．実施状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　24

１．開催概要

１）目的

北陸地方における建設事業の円滑な推進を図るため、官公庁及び民間の建設会社において、新たに研究開発された新技術、新工法等を報告することにより、研究開発技術の普及を図る事を目的に開催する。

２）開催日時等

平成１５年９月１８日（木）　　９：３０～１７：００

９：３０～　９：４０　開会式
北陸地方整備局 企画部長　的場 純一

９：４０～１０：４０　記念講演
「パラダイム・シフト」
米山観光㈱代表取締役社長　土田 新吾

１０：５０～１６：５０　技術報告
報告技術３２技術

１６：５０～１７：００　閉会挨拶
北陸地方建設事業推進協議会
「建設技術報告会」実行委員会委員長　難波 政行

３）開催会場

○会場

朱鷺メッセ（新潟コンベンションセンター）
新潟市万代島６－１
TEL：025-246-8400　FAX：025-246-8411

○使用室

・開会式　　4F マリンホール
・記念講演　　4F マリンホール
・報告会場
　第一会場　4F マリンホール
　第二会場　3F 中会議室301
・閉会式　　3F 中会議室301

○定員

・マリンホール　定員500名
・中会議室301　定員270名
} 計770名

４）構成及び報告時間

記念講演と技術報告会の２部構成とし、技術報告会は２会場、１題15分で４題毎に10分間の質疑・応答を行った。

５）報告技術のテーマ

北陸地方の建設技術の基本課題である下記５テーマより分類して報告を行った。

①雪に強い地域づくり

（克雪対策、冬期道路交通の安全確保・安全性に関する新技術等）

②良いものを安く

（生産性向上、コスト縮減、省力化に関する新技術等）

③自然災害からの安全確保

（危機管理、土石流などの防災に関する新技術等）

④環境の保全と創造

（建設副産物、リサイクル、省エネルギーに関する新技術等）

⑤ゆとりと福祉

（情報化、バリアフリーに関する新技術等）

６）テーマ別報告技術数

テーマ名	報告数
①雪に強い地域づくり	6
②良いものを安く	7
③自然災害からの安全確保	1
④環境の保全と創造	17
⑤ゆとりと福祉	1
計	32

７）主催

この報告会は、北陸地方建設事業推進協議会の活動の一環として、関係諸団体で構成した「平成１５年度北陸地方建設事業推進協議会『建設技術報告会』実行委員会（実行委員長：北陸技術事務所長）」の主催で実施した。

実行委員会構成機関及び委員は以下のとおり。

役 員	所　　属	役　職	氏　名
委員長	北陸地方整備局 北陸技術事務所	事務所長	難波　政行
委　員	北陸地方整備局 企画部 技術管理課	課長補佐	山之内　哲也
委員・会計監査	新潟県 土木部 技術管理課	土木工事検査監	高山　渉
委　員	富山県 土木部 企画用地課	技術管理係長	酒徳　鋼一
委　員	石川県 土木部 技術管理課	課長補佐	田中　一雄
委　員	日本道路公団 北陸支社 建設部 工務課	課長代理	中沢　寿幸
委　員	(社)日本土木工業協会 北陸支部	技術委員長	坂巻　明人
委　員	(社)日本道路建設業協会 北陸支部	幹事長	喜綿　洋二
委　員	(社)日本建設機械化協会 北陸支部	普及部会委員	榎　紀洋
委　員	(社)新潟県建設業協会	契約制度室長	圓山　文史朗
委　員	(社)富山県建設業協会	常務理事	木田　昭司
委　員	(社)石川県建設業協会	常務理事	金谷　進
委　員	北陸土木コンクリート製品技術協会	専務理事	柴田　勝太
委　員	(社)プレストレスト・コンクリート建設業協会 北陸支部	事務局長	滝沢　俊次
委　員	北陸ＰＣ防雪技術協会	事務局長	村田　佳久
委　員	北陸建設リサイクル協会	理事長	天尾　雅実
委　員	新潟県融雪技術協会	技術委員長	横山　政俊
委　員	(財)新潟県建設技術センター	参事	吉田　敦
委　員	北陸地質調査業協会	事務局長	吉岡　稔
委　員	(社)建設コンサルタンツ協会 北陸支部	広報委員長	青木　和之
委　員	(社)北陸建設弘済会	理事・事業調査室長	内山　宏文
事務局	北陸地方整備局 北陸技術事務所	副所長	穂苅　正昭
事務局	北陸地方整備局 北陸技術事務所	建設専門官	石田　一義

８）聴講者数一覧表

機関名		聴講者数 聴講申込数 計		聴講者数 当日聴講者数 計	
国土交通省	北陸地方整備局	28	55	52	68
	他地方整備局	27		16	
その他省庁・公団	その他省庁・公団				
自治体関係	新潟県	28	28	26	26
	新潟県　市町村	0			
	富山県	1	1	1	1
	富山県　市町村	0			
	石川県	16	16	17	17
	石川県　市町村	0			
	長野県	2		2	
	福島県	2		2	
	山形県	3		2	
日本道路公団	日本道路公団　北陸支社	8		4	
小　　計		115		122	
協会等：主催	(社)日本土木工業協会	90		74	
	(社)日本道路建設業協会	98		76	
	(社)日本建設機械化協会	41		35	
	(社)新潟県建設業協会	57		42	
	(社)富山県建設業協会	15		15	
	(社)石川県建設業協会	0		1	
	北陸土木コンクリート製品技術協会	19		12	
	(社)ﾌﾟﾚｽﾄﾚｽﾄ･ｺﾝｸﾘｰﾄ建設業協会	20		14	
	北陸ＰＣ防雪技術協会	6		5	
	北陸建設リサイクル協会	0		0	
	新潟県融雪技術協会	14		14	
	(財)新潟県建設技術センター	9		5	
	北陸地質調査業協会	16		11	
	(社)建設コンサルタンツ協会	0		1	
	(社)北陸建設弘済会	5		6	
小　　計		390		311	
協会等：その他	(社)日本埋立浚渫協会	12		9	
	(社)日本測量協会	0		0	
	(社)建設電気技術協会	0		0	
	(財)先端建設技術センター	1		1	
	(財)河川情報センター	0		0	
	(社)雪センター　北陸支部	0		0	
	(財)道路保全技術センター	3		1	
	(財)ダム技術センター	0		0	
	(財)ダム水源池環境整備センター	0		0	
	(財)リバーフロント整備センター	0		0	
	(財)砂防地すべり技術センター	0		0	
	(財)日本建設情報総合センター	1		1	
	(財)経済調査会　北陸支部	0		0	
	(財)国土開発研究センター	0		0	
	一般（加入協会不明を含む）	12		31	
小　　計		29		43	
学校		0		0	
報道		0		3	
発表者		32		32	
小　　計		32		35	
官公庁　計		115		122	
協会・一般　計		451		389	
合　　計		566		511	
スタッフ	官	14	24	14	24
	民	10		10	

2．実施内容

1）プログラム

以下のプログラムに沿い実施した。

Program　プログラム

開会式・記念講演--4F マリンホール--

9:30～9:40　開会式
開会挨拶　北陸地方整備局　企画部長　的場　純一

9:40～10:40　記念講演
米山観光株式会社 代表取締役社長　土田　新吾

第一会場--4F マリンホール--

10:50～12:00

テーマ④　タックコート用付着抑制型改質アスファルト乳剤について
鴨　智彦（東亜道路工業㈱）

テーマ④　エコベース工法
西野　昭正（佐藤道路㈱）

テーマ④　粉体状産業副産物を用いたコンクリートの消波ブロックへの適用
森末　晴男（㈱中越興業）

テーマ④　トゥーリフレッシャーシステム脱水処理タイプについて
早川　洋史（㈱本間組）

12:00～13:00　昼　食

13:00～14:10

テーマ④　景観を考慮した岩盤補強対策工事
舘　克彦（大成建設㈱）

テーマ④　透水・保水性舗装材と舗装工法の開発
澤田　英二（㈱ミルコン）

テーマ④　新分野への挑戦「ダム堆積土砂のリサイクルによる製砂(細砂・多目的焼砂)の製造・販売。」
赤坂　啓一（中谷建設㈱）

テーマ④　石炭灰を原料とした高強度人工骨材を用いたコンクリートのPC桁への適用について
天谷　公彦（㈱日本ピーエス）

14:10～14:20　休　憩

14:20～15:30

テーマ④　浚渫土砂を材料化するソイルセパレータ工法
薄井　治利（東亜建設工業㈱）

テーマ④　根をリサイクル工法の開発
西田　秀紀（西松建設㈱）

テーマ④　接着剤を使用しない木質ボードの製法及び用途について
森　達也（㈱小松製作所）

テーマ④　建設汚泥リサイクルシステムの紹介
森　泰雄（日立建機㈱）

15:30～16:40

テーマ④　富山食品廃棄物リサイクル施設建設工事
佐藤　隆裕（鹿島建設㈱）

テーマ④　金属ナトリウムを用いたダイオキシン類汚染土の無害化技術
笹木　弘（飛島建設㈱）

テーマ④　海浜の保全・回復を目指す新型人工リーフの施工
高村　浩彰（西松建設㈱）

テーマ④　鋼板遮水システム最終処分場の建設事例
田島　直毅（前田建設工業㈱）

16:40～16:50　移　動

第二会場--3F 中会議室301--

10:50～12:00

テーマ⑤　アクアプラ工法(雨水地下貯留システム)
池田　孝司（前田道路㈱）

テーマ④　明度を用いた路面の明色性評価
清水　忠昭（福田道路㈱）

テーマ①　凍結抑制舗装における物理・化学系複合材の開発
渡邊　貴子（鹿島道路㈱）

テーマ①　消融雪設備の光IP監視制御の安定運用について
鈴木　由幸（㈱興和）

12:00～13:00　昼　食

13:00～14:10

テーマ②　盛土施工の厚層化技術の検討
森田　義一（北陸地方整備局 北陸技術事務所）

テーマ①　光触媒膜を用いた滑雪板の開発
氷見　清和（富山県工業技術センター）

テーマ①　湿塩散布による圧雪処理方法の効率化
畦地　吾一（日本道路公団）

テーマ②　排水性舗装用基層混合物について
本間　圭一（北川ヒューテック㈱）

14:10～14:20　休　憩

14:20～15:30

テーマ①　凍結抑制舗装『ザペック工法タイプP』
上田　広（世紀東急工業㈱）

テーマ②　延長床版プレコンポ工法の開発
後藤　裕之（㈱ガイアートクマガイ）

テーマ③　レベル2地震動を再現させた道路盛土の耐震検討～動的遠心模型実験技術の適用～
佐久間　和弘（日本工営㈱）

テーマ②　New DREAM工法の開発
大久保　健治（大豊建設㈱）

15:30～16:40

テーマ②　自然色弾性舗装『レインポーミックSG』
水倉　一夫（日本道路㈱）

テーマ②　水路トンネル急速診断技術について
吉田　典明（日本工営㈱）

テーマ②　『張出車道工法』の開発
若林　修（日本サミコン㈱）

テーマ①　耐久性に機能性を併せもつエスマックシリーズ
水嶋　厚（日本舗道㈱）

16:40～16:50　移　動

16:50　閉 会 式　北陸地方建設事業推進協議会「建設技術報告会」実行委員会委員長
（北陸地方整備局 北陸技術事務所長）　難波　政行

技術報告テーマ
①雪に強い地域づくり　②良いものを安く　③自然災害からの安全確保　④環境の保全と創造　⑤ゆとりと福祉

※本プログラムは、報文と共に報文集として製本した。

２）記念講演

演　　題：「パラダイム・シフト」

講 演 者：米山観光株式会社 代表取締役社長　土田 新吾

講演概要：ご自身の体験をもとに、医学・医療という切り口から、病気は病に病んでいる部分を治そうとする対処療法では限界があり、身体全体の免疫力・治癒力を高めないと根本的な解決にならない。こうした考えはあらゆる産業にも言えるものであり、建設や技術の分野でも全体を見る目を深めていただきたい。

３）報告技術一覧表

構成団体名	テーマ	報告技術名	発表会社
国土交通省 北陸地方整備局	②	盛土施工の厚層化技術の検討	北陸技術事務所
富山県	①	光触媒膜を用いた滑雪板の開発	富山県工業技術センター
日本道路公団 北陸支社	①	湿塩散布による圧雪処理方法の効率化	金沢技術事務所
(社)日本土木工業協会 北陸支部	④	浚渫土砂を材料化するソイルセパレータ工法	東亜建設工業株式会社
	④	鋼板遮水システム最終処分場の建設事例	前田建設工業株式会社
	④	富山食品廃棄物リサイクル施設建設工事	鹿島建設株式会社
	④	景観を考慮した岩盤補強対策	大成建設株式会社
	④	金属ナトリウムを用いたダイオキシン類汚染土の無害化技術	飛島建設株式会社
	④	根をリサイクル工法の開発	西松建設株式会社
	④	トゥーレフレッシャーシステム(脱水処理タイプ)について	株式会社本間組
	②	New DREAM工法の開発	大豊建設株式会社
(社)日本道路建設業協会 北陸支部	①	凍結抑制舗装における物理・化学系複合材の開発	鹿島道路株式会社
	④	タックコート用付着抑制型改質アスファルト乳剤について	東亜道路工業株式会社
	②	自然色弾性舗装「レインボーミックSG」	日本道路株式会社
	④	明度を用いた路面の明色性評価	福田道路株式会社
	①	耐久性および機能性を併せ持つエスマックシリーズ	日本舗道株式会社
	②	延長床版プレコンポ工法の開発	株式会社ガイアートクマガイ
	⑤	アクアプラ工法(雨水地下貯留システム)	前田道路株式会社
	④	エコベース工法	佐藤道路株式会社
	②	排水性舗装用基層混合物について	北川ヒューテック株式会社
	①	凍結抑制舗装『ザペック工法タイプP』	世紀東急工業株式会社
(社)日本建設機械化協会 北陸支部	④	自然環境に配慮した接着剤を使用しない木質ボードの製法及び利用用途について	株式会社小松製作所
	④	建設汚泥リサイクルシステムの紹介	日立建機株式会社
(社)新潟県建設業協会	④	粉体状産業副産物を用いたコンクリートの消波ブロックへの適用	株式会社中越興業
(社)富山県建設業協会	④	新分野への挑戦「ダム堆積土砂のリサイクルによる製砂(細砂・多目的焼砂)の製造・販売。」	中谷建設株式会社
(社)石川県建設業協会	④	海浜の保全・回復を目指す新型人工リーフの施工	西松建設株式会社
北陸土木コンクリート製品技術協会	④	透水・保水性舗装材と舗装工法の開発	株式会社ミルコン
(社)プレストレスト・コンクリート建設業協会 北陸支部	④	石炭灰を原料とした高強度人工骨材を用いたコンクリートのPC桁への適用について	株式会社日本ピーエス
北陸PC防雪技術協会	②	「張出車道工法」の開発	日本サミコン株式会社
新潟県融雪技術協会	①	消融雪設備の光IP監視制御の安定運用について	株式会社興和
(社)建設コンサルタンツ協会 北陸支部	②	水路トンネル急速診断技術について	日本工営株式会社
	③	レベル2地震動を再現させた道路盛土の耐震検討－動的遠心模型実験技術の適用－	日本工営株式会社
14機関	**32技術**		

3．準備及び運営

1）平成15年度 北陸地方建設事業推進協議会「建設技術報告会」スケジュール

事項＼月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	備考
推進協議会運営委員会 実行委員会 事務局事前準備	○		5/12 ①						11/20 ②		
報文募集(概要版原稿) ≪各機関毎≫			5/16		7/4						
発表課題選定				6/20	7/9						
採否通知					7/14 ○						
本原稿作成					7/14	8/4					
プレゼンテーションデータ作成					7/14		8/29				
報文集編集・印刷					7/20		9/11				
聴講者募集 ≪各機関毎≫						8/11	9/17				
ホームページ開設						8/8	9/18				
記者クラブ・業界紙 投込み				7/7発送 7/9解禁	○						
記念講演			依頼	6/30決定 ○							
報告会開催							9/18 ◎				
ポスター印刷				けんせつフェアが作成		8/11発送 ○					
決定事項等 (実行委員会)			・実施計画(案)の承認 ・予算(案)の承認 ・募集要領(案)の承認						・決算報告 ・実施状況報告		

2）主な経緯

会議名等	実施日	場所	内容
「建設技術報告会」 第一回実行委員会	平成15年5月12日(月)	万代荘	実施計画書(案)の承認 予算(案)の承認
「建設技術報告会」開催	平成15年9月18日(木)	朱鷺メッセ (新潟ｺﾝﾍﾞﾝｼｮﾝｾﾝﾀｰ)	
「建設技術報告会」 第二回実行委員会	平成15年11月20日(木)	万代荘	実施状況報告 決算報告 会計監査報告

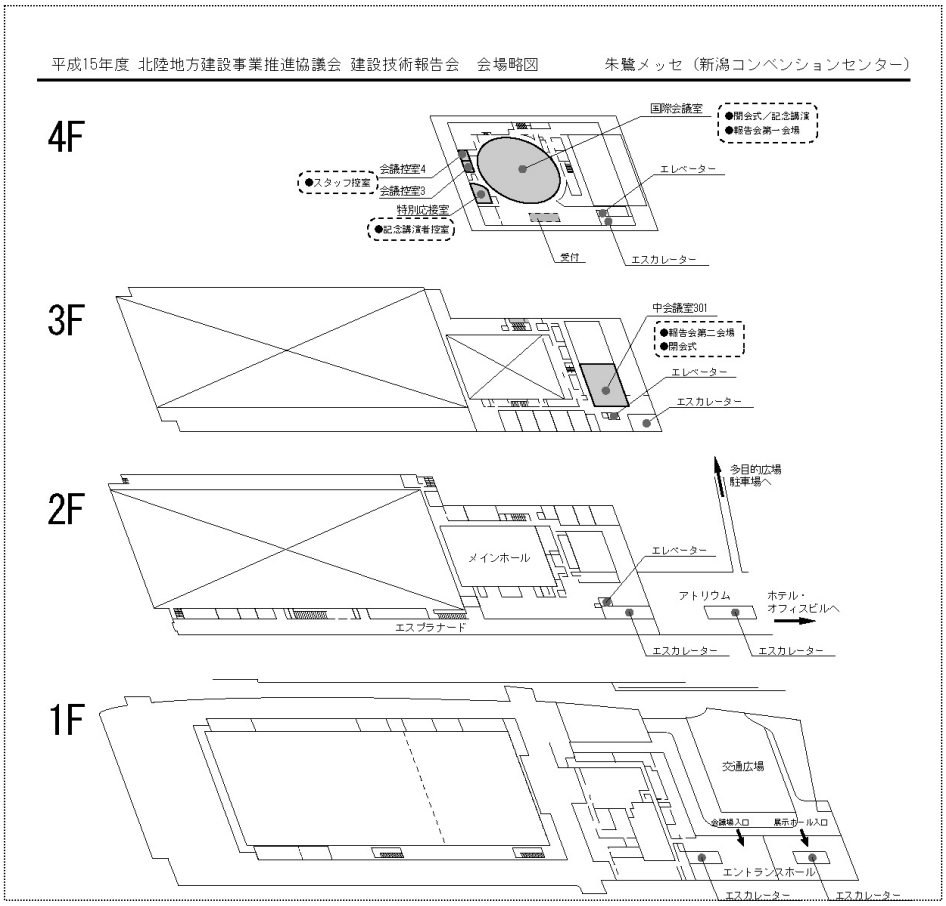
3）報告会当日の運営体制

係　名	作 業 内 容	国交省	新潟県	新潟建協	土工協	道建協	機械協
受付係	聴講者及び発表者の受付		4	2	2	2	2
報告会司会係	報告会の司会進行	2			1	1	
時間管理係	発表時間の管理		(2)				
パソコン係	発表者の来場確認及びPCトラブル時の対処	1	(1)				
マイク受渡し係	質問者へのマイクの受渡し	1		(2)		(1)	(1)
会場照明係	会場照明の調整	1					(1)
開閉会・記念講演司会係	開閉会・記念講演の司会進行	1					
VIP案内・マスコミ対応係	記念講演者等の誘導及びマスコミ対応	1					
連絡調整係	報告会全体の連絡・調整	1					
接遇係	記念講演者等の接遇	1					
写真係	開催状況等の写真撮影	1			(1)		
計		10	4	2	3	3	2
合計		24					

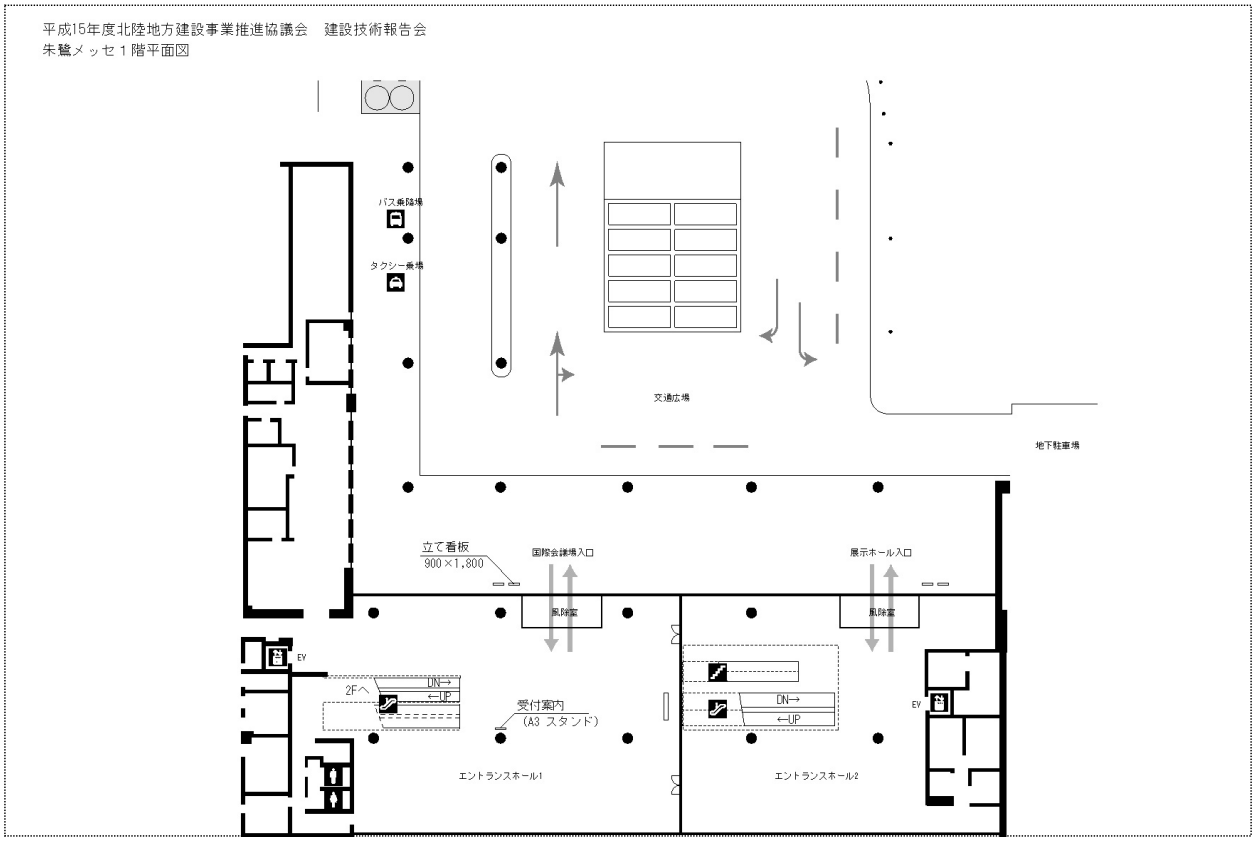
※括弧内の数字は、記念講演終了後、受付係から各係に移動した人数

4）会場レイアウト

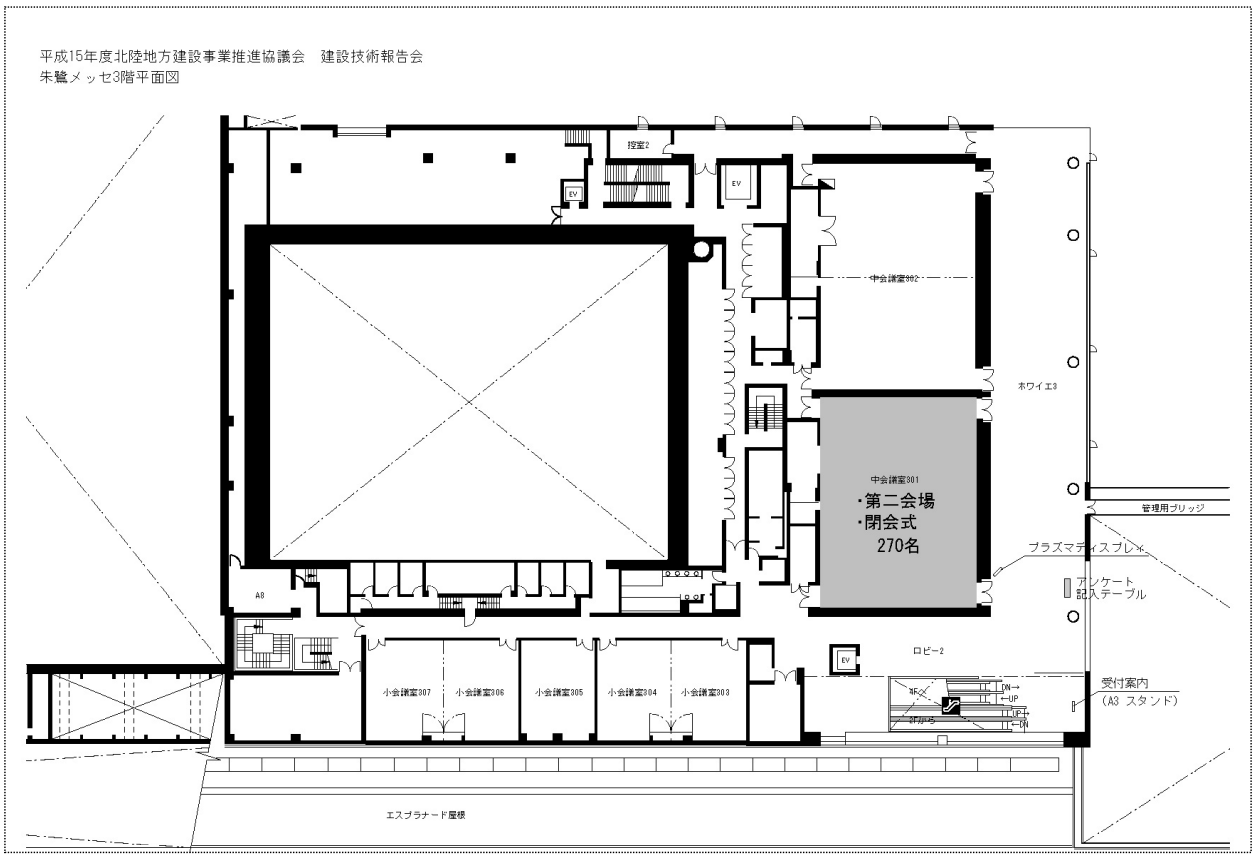
（1）会場概略図



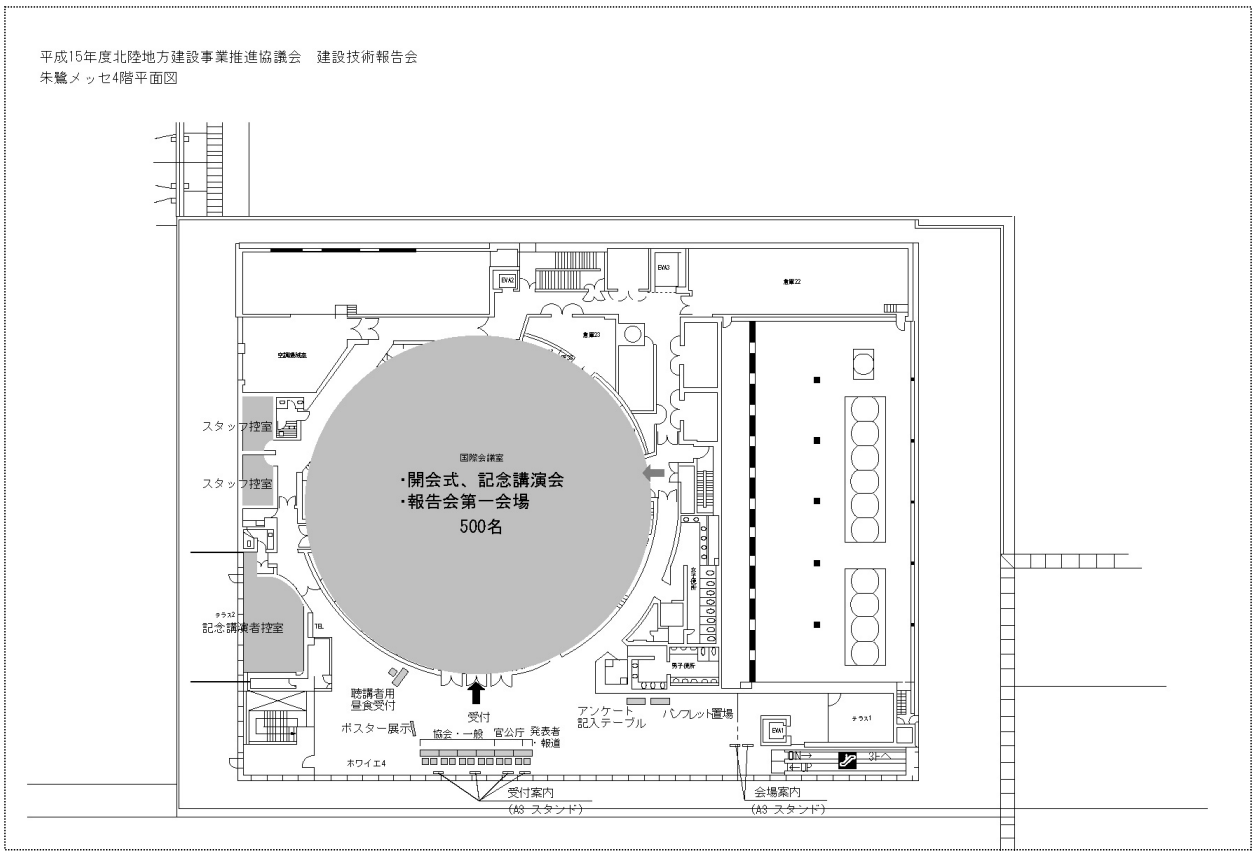
（2）１階平面図



（３） ３階平面図

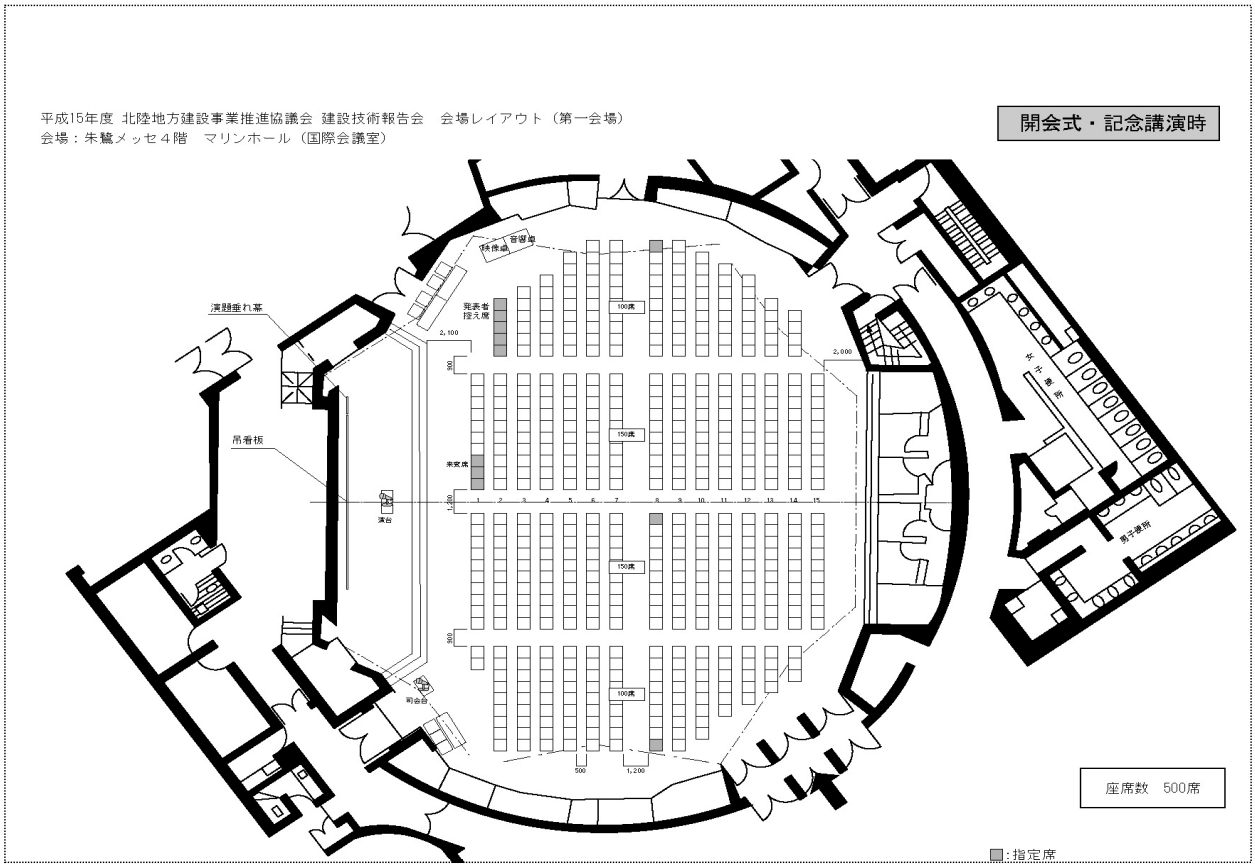


（４） ４階平面図

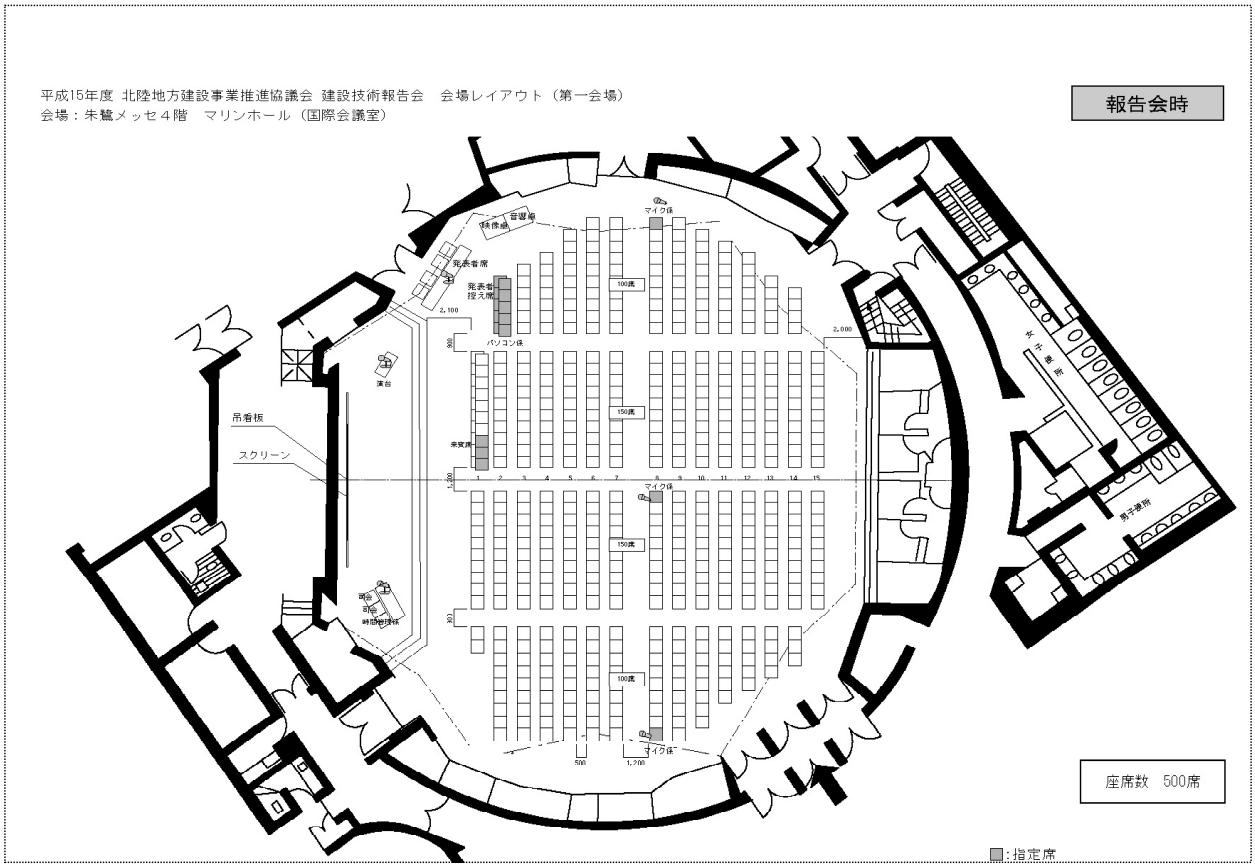


（５）第一会場配置図

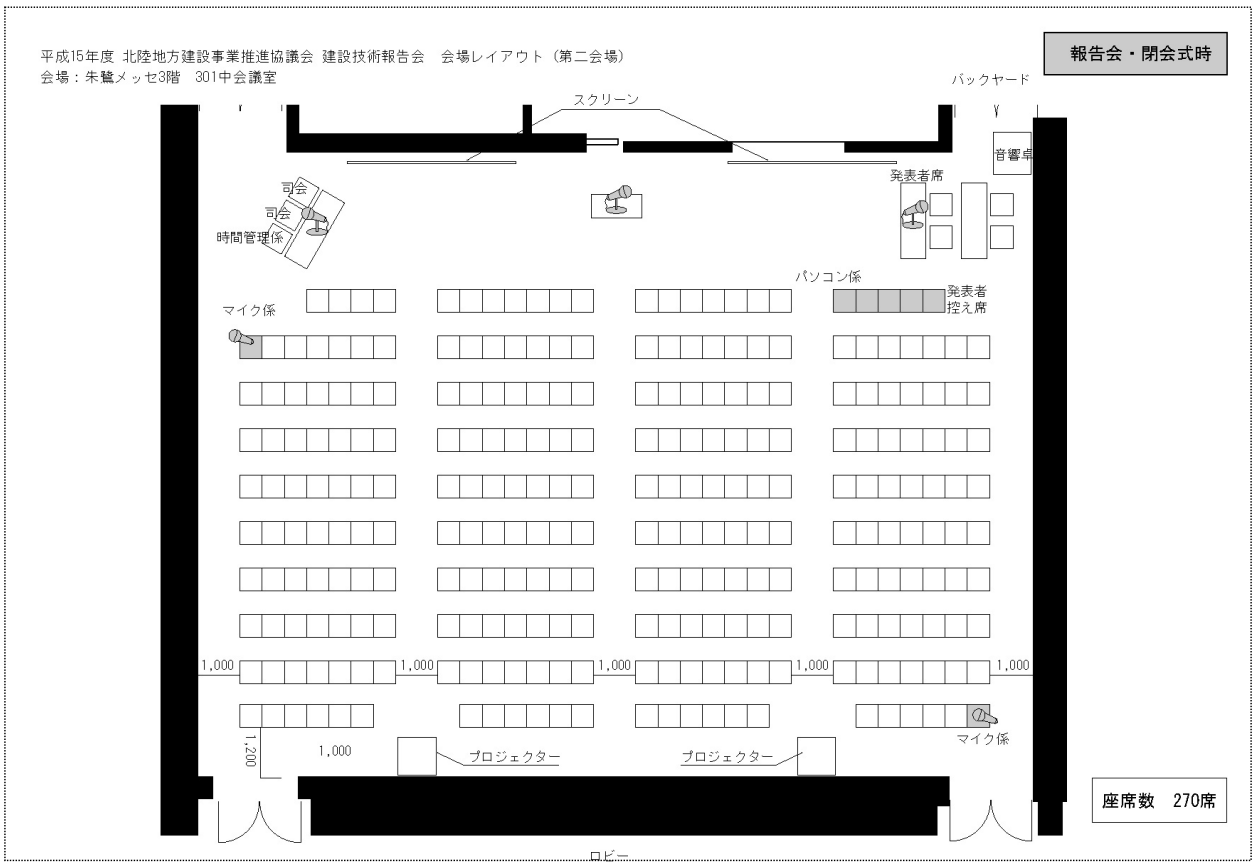
○開会式、記念講演時



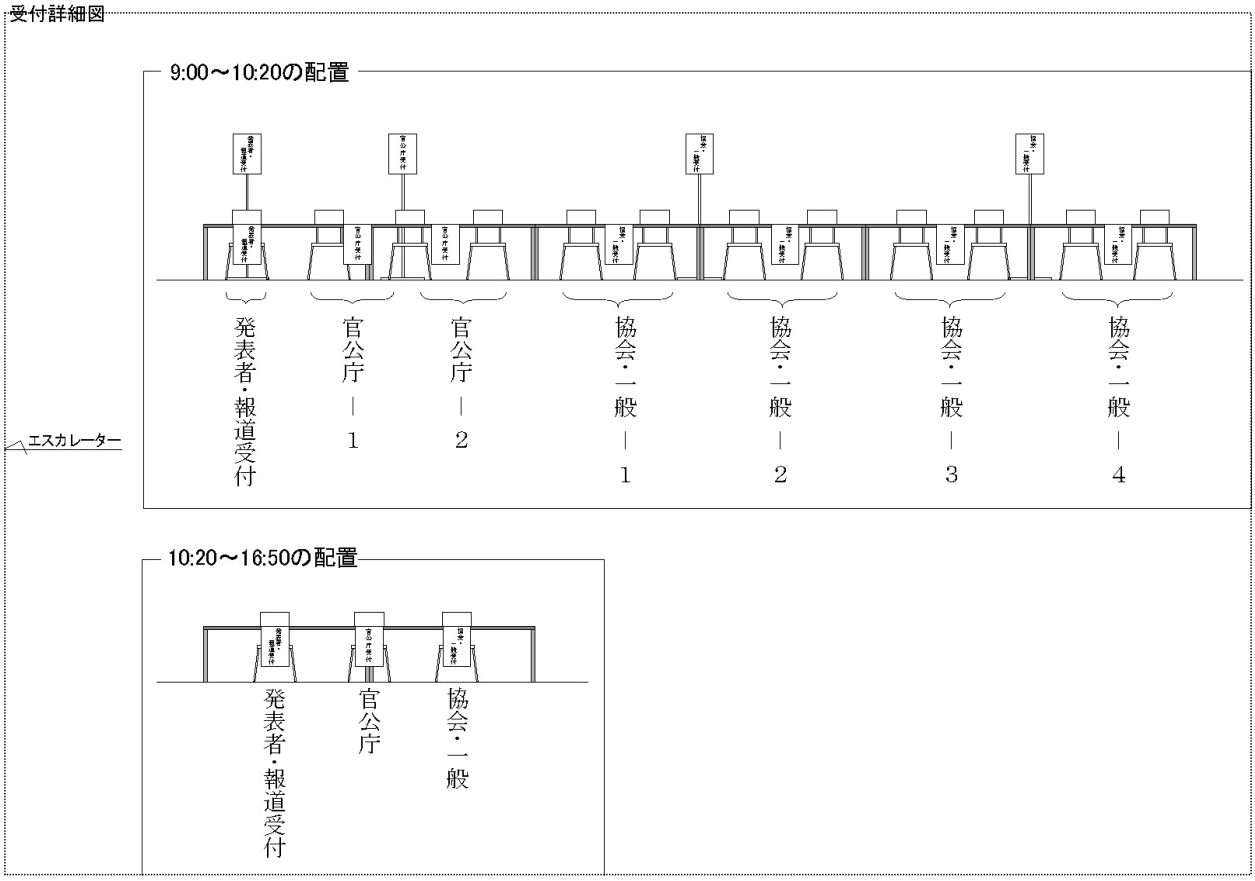
○報告会時



（６）第二会場配置図



（７）受付配置図



４．広報

１）広報活動内容

内　　容		依頼等時期	実施時期	備考
ポスター配布		8月11日発送		フェアポスターに同載
チラシ配布		8月11日発送		フェアチラシに同載
記者クラブ投込み	新潟県政記者クラブ	7月7日投込	―	フェアと同時投込
	新県政記者クラブ			
	富山県政記者クラブ			
	石川県庁記者クラブ			
	山形県政記者クラブ			
	表現センター（長野県政記者クラブ）			
	福島県政記者クラブ			
	岐阜県政記者クラブ			
	福井県政記者クラブ			
業界紙投込み	日刊建設通信新聞社	7月7日投込	7月14日、9月22日	フェアと同時投込
	日本工業経済新聞社		―	
	日刊建設工業新聞社		9月19日	
	建設ジャーナル		―	
	新潟建設日報社		―	
	産業新聞社		―	
	鉄鋼新聞社		―	
	北陸工業新聞社		―	
	市町村新聞社		―	
	中部建設新聞社		―	
	実業新報社		―	
	日刊建設産業新聞社		―	
	長野建設工業新聞社		―	
	建設タイムズ		―	
	日刊県民福井		―	
	北国新聞		―	
	建設工業新聞		―	
ホームページ開設	北陸技術事務所		・8月8日～9月18日 ・10月20日～	

２）掲載内容

（１）開催前掲載

○ポスター　　Ａ２版

○チラシ　　Ａ４版

○新聞

過去最高の142者出展

けんせつフェアｉｎ北陸03

９月19、20日 朱鷺メッセで開催

コスト縮減、環境分野中心に新技術

産学官による建設新技術を一堂に集めた「けんせつフェアｉｎ北陸２００３」の開催概要が決まった。「見て、ふれて、知る建設技術」をテーマに、９月19、20の両日、新潟市万代島の朱鷺メッセ（新潟コンベンションセンター）を会場に開かれ、過去最高の１４２者が出展する。コスト縮減や環境分野を中心に３３５の新技術が実演・展示される。日本海側で唯一の大型浚渫兼油回収船「白山」も一般公開される。

北陸地方整備局をはじめとする行政機関と建設業団体などで構成する実行委員会が主催する同フェアは、今回が６回目。建設技術が北陸の地域づくりにどのように生かされ、生活に役立っているかを一般市民にＰＲするとともに、建設技術者の技術研鑽（けんさん）や新技術の活用・普及を図るのが目的。

建設新技術展示会への出展数は過去最高の１４２で、官公庁３機関（北陸地方整備局、国土地理院、日本道路公団）、学校１機関（長岡技術科学大）、ＮＰＯ法人１機関（地域インフラ研究会）、企業１３７社。

出展技術は５つのテーマに分け、計３３５技術を実演・展示する。「雪に強い地域づくり」27技術、「良いものを安く」１０８技術、「自然災害からの安全確保43技術、「環境の保全と創造」１３２技術、「ゆとりと福祉」25技術となっている。

前回までと比較し、「良いものを安く」や「環境の保全と創造」の分野で出展が増加しており、「既存の技術では限界のあるコスト縮減や環境分野で、新技術を開発して対応していこうという傾向が反映されている」（北陸地方整備局北陸技術事務所）という。

また、今回は会場の朱鷺メッセが信濃川沿いにあることから、大型浚渫兼油回収船「白山」を会場脇の岸壁に接岸させ一般公開するほか、楽しみながら環境問題などが体験学習できる「キッズコーナー」を設けるなど、「家族全員で参加できる企画を盛り沢山用意した」（実行委）のも特徴。

開催２日間で約１万人の来場者を見込んでいる。入場無料。

なお、フェア開催前日の18日には同会場で２００３年度建設技術報告会も開かれる。

フェア、報告会とも問い合わせは事務局の北陸地方整備局北陸技術事務所・電話０２５－２３１－９９３０。

実行委員会の構成団体は次のとおり。

北陸地方整備局、新潟県、富山県、石川県、日本道路公団北陸支社、日本土木工業協会北陸支部、日本道路建設業協会北陸支部、日本建設機械化協会北陸支部、新潟県建設業協会、富山県建設業協会、石川県建設業協会、北陸土木コンクリート製品技術協会、建設コンサルタンツ協会北陸支部、建設電気技術協会北陸支部、日本建設情報総合センター北陸地方センター、日本埋立浚渫協会北陸支部、北陸地質調査業協会、北陸建設リサイクル協会。

日刊建設通信新聞　平成15年７月14日

○ホームページ

北陸技術事務所　平成15年８月８日～９月18日

（２）開催後掲載

○新聞

環境分野中心に32題

北陸地方建設技術推進協 建設技術報告会開く

ダイオキシン汚染土無害化など

『建設技術報告会』が18日、新潟市万代島の朱鷺メッセで開かれ＝写真、環境分野を中心に新技術や新工法、施工事例などが紹介された。ダイオキシン類汚染土の無害化技術など最新の研究開発も発表され、関心を集めた。

北陸地方整備局、北陸3県、日本道路公団北陸支社、日本土木工業協会北陸支部、日本道路建設業協会北陸支部、新潟県建設業協会、石川県建設業協会など建設関係機関・団体でつくる北陸地方建設事業推進協議会（会長・鬼頭平三北陸地方整備局長）の主催。

建設事業の効率的で円滑な推進に役立てるのがねらいで、今回で8回目。報告会には各界から多数が参加。北陸地方整備局の的場純一企画部長が「建設事業に対する社会的要請は様々な分野にふんだんがあり、新技術や新工法の積極的な研究と開発が期待される。報告会の意義は大きい」などと期待を表明。記念講演に続き、2会場に別れ発表が行われた。

今回のテーマは、雪に強い地域づくりなど5分野で、延べ32件の応募があった。環境関連の発表は、北陸初の富山県建設業協会、富山県建設産業廃棄物リサイクル施設建設工事（鹿島）や、北陸地方整備局がNETIS（新技術活用促進システム）に認定した後渠遺跡（本間組）など、廃棄物のリサイクルや環境に配慮した処理技術に関するものが17件と目立つ。ほかに、コスト縮減に関するものが6件、安全関連1件、克雪や雪対策関係で5件など。

このうち環境分野では、ダイオキシン類汚染土の無害化技術に関する最新の研究開発が報告され、関心を集めた。

発表報告は「金属ナトリウムを用いたダイオキシン類汚染土の無害化技術」。発表者は飛島建設土木本部土木技術部。同社では、DCRプロジェクトとして立ち上げ、ナトリウムなどの還元剤に注目、金属ナトリウムをかれる土壌と混合・撹拌するだけで浄化処理できるDCR脱ハロゲン化技術の確立をめざし、研究を促進。焼却灰に伴うダイオキシン汚染土を対象に、99.9以上の分解率を達成。「実用化レベルに達した。今後は各種土壌について検証する」とした。24日に開かれる土木学会03年度全国大会第58回年次学術講演会で発表される予定。

新技術・新工法一覧

▽タクフール凡付管抑制型改質アスファルト乳剤＝東亜道路工業▽エコペーブス工法＝佐藤道路▽粉体状産業副産物を用いたコンクリート用混和材＝ジェイ・ピー・ケー▽ブロック運用＝越美▽トゥーリフレッシャーシステム脱水処理ライン＝本間組▽最軟弱補強対策工事＝大成建設▽透水・保水性舗装材と舗装法の開発＝日立建設▽海洪の保全・回復を目立建機▽富山食品廃棄物リサイクル施設建設工事＝鹿島▽廃棄物のリサイクル・環境配慮の処理技術＝飛島建設▽ダイオキシン類汚染土の無害化技術＝飛島建設▽アクアラ正・雨水地下貯留システム＝前田建設▽アクアラ・道路下面排水システム＝前田建設▽明度を用いた路面の明色評価＝前田建設▽路面の抑制舗装における指標・化学系複合材の開発＝鹿島道路▽消雪設備の光ＦＢ監視制御の安全運用＝興和▽廃雪施工の任意化＝日本道路▽水路トンネル急舗装・レインボーミックＳ技術の検討＝北陸技術事務所▽光解析を用いた消雪の開発＝富山県土木センター▽湿塩散布による任意処理方法の効率化＝日本道路公団▽スマックシリーズ＝日本舗道▽ニューチック▽瀬結制舗装・ザベック工法▽イアル制世紀型ポーラス舗装▽延長床版プレコン工法＝ガイアートワイ▽レベル化地震動を用いたガイアレベル化地震動を用いた日本工業▽NewDREAM工法＝大鹿建設▽自然色彩舗装＝日本道路▽水路トンネル急速診断技術＝日本工営▽現地調査工法の開発＝日本サミット▽耐久性に機能性をもつエスマックシリーズ＝日本舗装▽石炭灰を原料とする高強度人工骨材を用いたコンクリートのヒロケアへの適用＝日本ピーエス▽道路工事例＝前田建設▽ジェイルレーダ工法＝東亜建設▽「根をリサイクル工業▽「根をリサイクル工法の開発＝西松建設▽複合材料を利用した大型ボードの開発＝日立建設▽連続ブロック運用＝越美▽トゥーリフレッシャーシステム脱水処理ライン＝本間組▽設計法のサイクルシステム＝日立建機▽富山食品廃棄物リサイクル施設建設工事＝鹿島▽海洪の保全・回復を目立建機▽富山食品廃棄物リサイクル施設建設工事＝鹿島▽廃棄物のリサイクル・環境配慮の処理技術＝飛島建設▽ダイオキシン類汚染土の無害化技術＝飛島建設▽アクアラ正・雨水地下貯留システム＝前田建設▽アクアラ・道路下面排水システム＝前田建設▽明度を用いた路面の明色評価＝前田建設▽路面の抑制舗装における指標・化学系複合材の開発＝鹿島道路▽消雪設備の光ＦＢ監視制御の安全運用＝興和▽廃雪施工の任意化＝日本道路▽水路トンネル急舗装・レインボーミックＳ技術の検討＝北陸技術事務所▽光解析を用いた消雪の開発＝富山県土木センター▽湿塩散布による任意処理方法の効率化＝日本道路公団▽スマックシリーズ＝日本舗装▽鋼板遮水システム最終処分場の建設事例＝前田建設▽アクアラ正・雨水地下貯留システム＝前田建設▽アクアラ・道路下面排水システム＝前田建設▽明度を用いた路面の明色評価＝前田建設▽路面の抑制舗装における指標・化学系複合材の開発＝鹿島道路▽消雪設備の光ＦＢ監視制御の安全運用＝興和▽廃雪施工の任意化＝日本道路▽水路トンネル急舗装・レインボーミックＳ技術の検討＝北陸技術事務所▽光解析を用いた消雪の開発＝富山県土木センター▽湿塩散布による任意処理方法の効率化＝日本道路公団▽スマックシリーズ＝日本舗装▽鋼板遮水システム最

日刊建設工業新聞　平成15年９月19日

けんせつフェアｉｎ北陸03

見て、ふれて、知る建設技術

139社が出展　技術で活路開こう

家族連れで盛況の会場・全景

関係者がテープカット

あいさつする鬼頭局長

無人ショベル操縦体験

一般公開された「白山」

産学官による建設新技術を一堂に集めた「けんせつフェアｉｎ北陸２００３」が19、20の両日、新潟市の朱鷺メッセで開かれた。建設関係者のほか、家族連れや高校生など多くの一般市民も訪れ、「見て、ふれて、知る建設技術」の開催テーマその通に、ひざ元目にすることのない建設技術が果たしている役割や仕組みを楽しみながら体験していた。

ことしで6回目を迎えるニッケンセレモニーでは、主催者を代表し鬼頭平三北陸地方整備局長が「建設技術高の１４３者、出展技術数は過去最高の１３９社が出展した。

今回の出展者数は過去最高の１３９社が出展した。

建設業団体などで構成するが北陸の地域づくりにどのようにかかわっているか理解を深めてもらうのがフェアの主目的。今後これら技術の積極的な活用も期待し、初日9時半からのオープンセレモニーでは、主催者を代表して鬼頭平三北陸地方整備局長が「建設技術の安全確保」「環境の保全と創造」「ゆとりと福祉」の5テーマに分けられ、プレゼンテーションに熱気がこもった。

実行委員会が主催。

企業は139社が出展。低迷が続く経済情勢があって技術で活路を開こうとする各社の意欲が会場にあふれ、各ブースの担当者はプレゼンテーションに熱気がこもった。

官公庁コーナーでは、全国に3基しかないという3Ｄ石流の立体映像を体験できるシアターや、無人ショベルの遠隔操縦体験のコーナー、朱鷺メッセ脇の岸壁に係留された大型浚渫兼油回収船「白山」の一般公開など高校生や家族連れの人気を集め、順番待ちができるほどだった。

技術報告会も開催

一方、フェア前日の18日には、北陸地方建設事業推進協議会主催の建設技術報告会が開かれた。民間企業など開発した建設新技術が報告され、テーマに発表が集まった。

報告会に先立ち、土田新吾米山観光社長による記念講演が行われた。

日刊建設通信新聞　平成15年９月22日

○ホームページ

■「平成15年度 建設技術報告会」開催■
～ 建設分野の新技術・新工法 ～

「建設技術報告会」(主催:北陸建設事業推進協議会)が9月18日、新潟市万代島の新潟コンベンションセンター「朱鷺メッセ」で、市民ら約510名を集めて開催されました。

この建設技術報告会は、北陸地方における建設事業の円滑な推進を図るため、官公庁及び民間の建設会社において、新たに研究開発された新技術、新工法等を報告することにより、研究開発技術の普及を図ることを目的に平成7年度から始まり今回で8回目の開催となりました。

開会の挨拶
北陸地方整備局
的場企画部長

報告会は、主催者を代表した北陸地方整備局の的場企画部長の挨拶で始まり、続いて米山観光(株)代表取締役社長の土田新吾氏より「パラダイム シフト」という題で、ご自身の体験をもとに、医学・医療という切り口から、病気は病に病んでいる部分を治そうとする対処療法では限界があり、身体全体の免疫力・治癒力を高めないと根本的な解決にならない。こうした考えはあらゆる産業にも言えるものであり、建設や技術の分野でも全体を見る目を深めていただきたいという趣旨のご講演をいただき、聴講者から大きな拍手を受けました。

記念講演
米山観光(株)
土田　新吾　氏

技術報告は、北陸地方のニーズの高い5テーマについて32題の発表を2会場に分かれ、

1.雪に強い地域づくり(6課題)
2.良いものを安く(7課題)
3.自然災害からの安全確保(1課題)
4.環境の保全と創造(17課題)
5.ゆとりと福祉(1課題)

等32課題の発表がありました。

今年度の課題の特徴としては、「21世紀は環境の時代」と言われるように、地球規模で対策が求められている、環境に関する技術の発表が多数を占め、建設分野においても環境への配慮が益々重要になっています。また、発表内容について会場聴講者からも質問や意見が出され、建設新技術への興味と普及に向けた有意義な報告会となりました。

課題発表の模様

閉会・講評
実行委員長
難波北陸技術事務所長

最後に本報告会の実行委員長である難波北陸技術事務所長から発表内容についての講評と閉会挨拶があり、報告会は盛況裡に終了しました。

北陸技術事務所　平成15年10月11日

５．アンケートの実施

受付時に報文集、質問用紙とあわせてアンケート用紙を配布し、アンケートを行った。

１）様式

アンケートの内容は以下のとおり。

「平成15年度 建設技術報告会」アンケート

平成15年度「建設技術報告会」 実行委員会

※回答は、記入型の設問以外は記号を○で囲んでください。

問１．

①あなたの性別は。 イ．男　ロ．女

②あなたの年齢は。 イ．19歳以下　ロ．20歳代　ハ．30歳代　ニ．40歳代　ホ．50歳代　ヘ．60歳以上

③あなたの職業・職種は。 イ．国土交通省　ロ．県　ハ．市町村　ニ．公団　ホ．イ～ニに属さない官公庁（機関名：　）　ヘ．建設関連の会社（技術職）　ト．建設関連の会社（事務職）　チ．建設関連の協会・団体　リ．その他（　）

④あなたは主にどの分野の仕事にたずさわっていますか。 イ．河川　ロ．道路　ハ．港湾空港　ニ．営繕　ホ．共通（　）　ヘ．その他（　）

⑤どこから来られましたか。 イ．富山市内　ロ．富山市を除く富山県内　ハ．新潟県　ニ．石川県　ホ．その他（　）

⑥この報告会を何で知りましたか。 イ．ポスター・チラシ　ロ．新聞　ハ．ホームページ　ニ．協会・団体からの案内　ホ．国土交通省・県からの案内　ヘ．学校　ト．くちこみ　チ．その他（　）

問２．

①建設事業への新技術導入の必要性についてどう思われますか。

イ．必要性を感じる　ロ．多少感じるが急務の問題ではない　ハ．特に問題意識はない

②上記①で「イ．必要性を感じる」または「ロ．多少感じるが急務の問題ではない」に○をされた方はどの分野に必要性を感じますか（複数回答可）。

イ．雪に強い地域づくり・・・・・「克雪対策技術」、「冬期道路交通の安全確保」等

ロ．良いものを安く・・・・・・・「コスト縮減技術」、「省力化技術」、「生産性向上技術」等

ハ．自然災害からの安全確保・・・「土石流などからの防災技術」、「災害対策技術」、「危機管理技術」等

ニ．環境の保全と創造・・・・・・「リサイクル技術」、「省エネルギー技術」、「環境整備技術」等

ホ．ゆとりと福祉・・・・・・・・「生活者の安全健康技術」、「情報化技術」等

ヘ．その他（　）

③新技術導入のネックとなっているものがあるとすれば、それは何ですか。

イ．経費的なもの　ロ．積算体系等制度的なもの　ハ．新技術に関する情報不足(工法選定 etc)

ニ．その他（　）

（裏面に続きます）

問３．

①今後もこの報告会があった方が良いと思いますか。

イ．思う　ロ．思わない　ハ．内容による

②上記①で「ロ．思わない」に○をされた方はその理由を、「ハ．内容による」に○をされた方はどのような内容を望まれるのかをご記入下さい。

以下の設問③と④は、上記の設問①でイ．又はハ．に○付けた方に伺います。

③開催時期はいつが良いと思いますか。

イ．今の時期が良い　ロ．その他（　月頃）

④開催地はどこが良いと思いますか。

イ．今回の開催地で良い　ロ．新潟県、富山県、石川県で順番に開催　ハ．その他（　）

問４．この報告会の報告形式や会場設営についてご意見がありましたらご記入ください。

問５．その他、この報告会について感じたことがありましたらご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

※この用紙は第一会場、第二会場前のアンケート回収箱に投函して下さい。

２）回収率

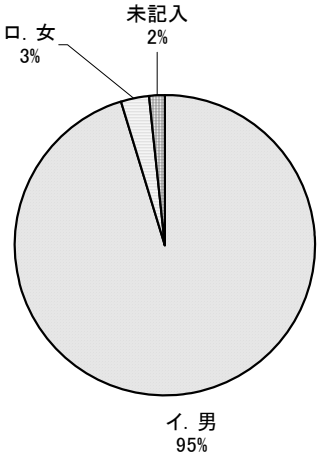
アンケートの回収率は以下のとおり。

	官 公 庁	民　間	計
配 布 数	１２２	３８９	５１１
回 収 数	４１	１８９	２３０
回 収 率	３３．６％	４８．５％	４５．０％

３）回答内容

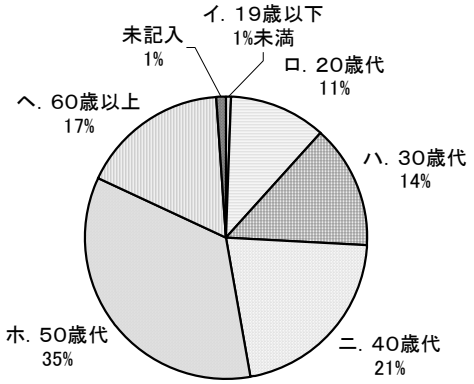
問１

①あなたの性別は？



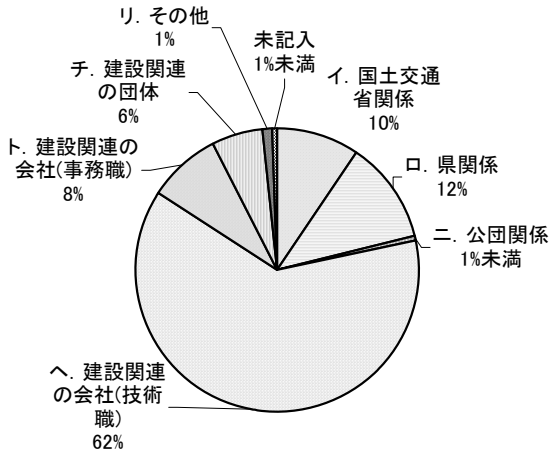
イ．男	180
ロ．女	6
未記入	3
計	189

②あなたの年齢は？



イ．１９歳以下	1
ロ．２０歳代	21
ハ．３０歳代	27
ニ．４０歳代	40
ホ．５０歳代	66
ヘ．６０歳以上	32
未記入	2
計	189

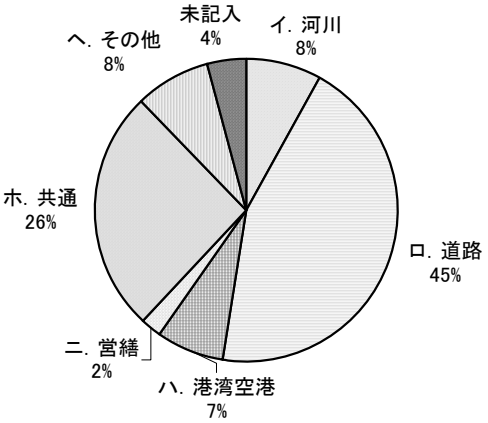
③あなたの職業・職種は？



イ．国土交通省関係	18
ロ．県関係	22
ハ．市町村関係	0
ニ．公団関係	1
ホ．その他の官公庁	0
ヘ．建設関連の会社(技術職)	118
ト．建設関連の会社(事務職)	16
チ．建設関連の団体	11
リ．その他	2
未記入	1
計	189

その他
- 会社役員（１）
- 未記入（１）

④あなたはどの分野の仕事にたずさわっていますか？

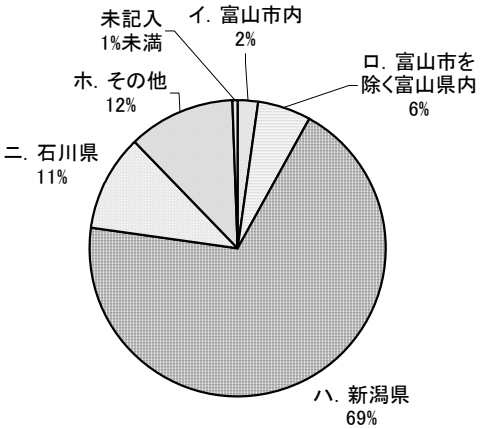


イ．河川	15
ロ．道路	84
ハ．港湾空港	14
ニ．営繕	4
ホ．共通	49
ヘ．その他	15
未記入	8
計	189

その他

・消融雪事業（1）　・上水道（1）
・リサイクル（1）　・地質調査（1）
・土木、建築（1）　・営業職（1）
・消融雪事業（1）　・環境（2）
・建材、資材（1）　・維持管理（1）
・建築関係（1）　・未記入（3）

⑤どこから来られましたか？

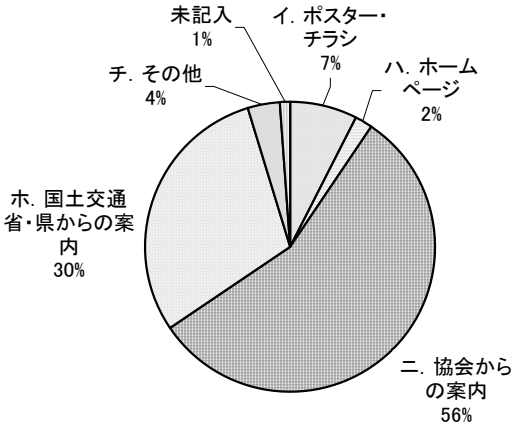


イ．富山市内	4
ロ．富山市を除く富山県内	11
ハ．新潟県	131
ニ．石川県	20
ホ．その他	22
未記入	1
計	189

その他

・茨城県（2）　・北海道（4）
・宮城県（2）　・長野県（2）
・山形県（4）　・東京都（4）
・千葉県（1）　・未記入（3）

⑥この報告会を何で知りましたか？



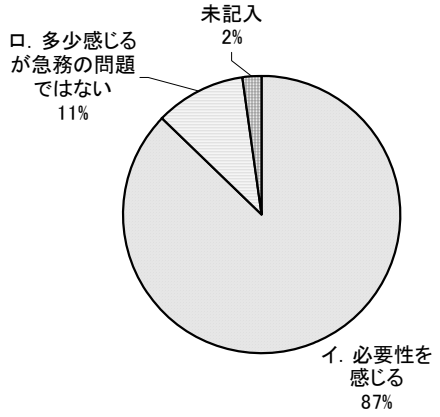
イ．ポスター・チラシ	14
ロ．新聞	0
ハ．ホームページ	4
ニ．協会からの案内	106
ホ．国土交通省・県からの案内	56
ヘ．学校	0
ト．くちこみ	0
チ．その他	7
未記入	2
計	189

その他

・会社（3）
・建設ほくりく（1）
・発表者から（1）
・未記入（2）

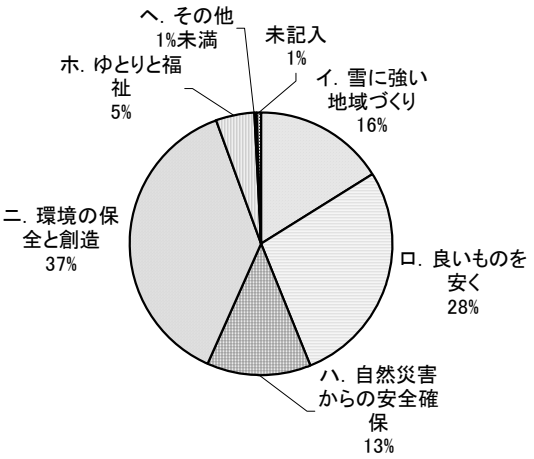
問2

①建設事業への新技術導入の必要性についてどう思われますか？



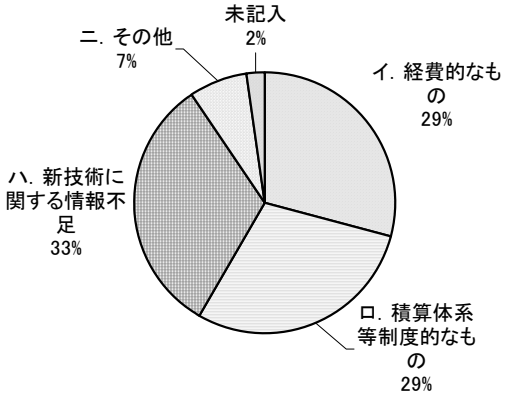
イ．必要性を感じる	165
ロ．多少感じるが急務の問題ではない	20
ハ．特に問題意識はない	0
未記入	4
計	189

②上記①で「イ．必要性を感じる」または「ロ．多少感じるが急務の問題ではない」に○をされた方はどの分野に必要性を感じますか？（複数回答可）



イ．雪に強い地域づくり	63
ロ．良いものを安く	110
ハ．自然災害からの安全確保	50
ニ．環境の保全と創造	148
ホ．ゆとりと福祉	19
へ．その他（質の良いもの）	1
未記入	2
計	393

③新技術導入のネックとなっているものがあるとすれば、それは何ですか？（複数回答可）

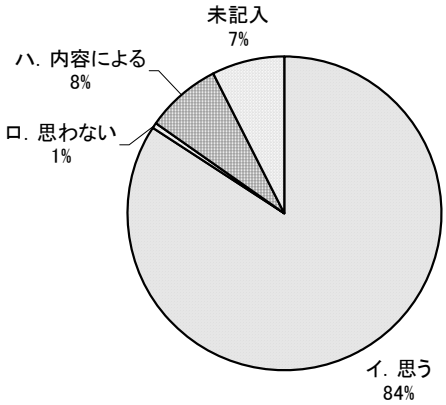


イ．経費的なもの	68
ロ．積算体系等制度的なもの	68
ハ．新技術に関する情報不足	75
ニ．その他	17
未記入	5
計	233

「ニ．その他」の内容

・発注者の積極的理解。
・役所の認識不足を強く感じる。
・発注者が新しいものに取り組むことに積極性が少ない。（３）
・意欲、熱意が欲しい。
・安くて良い工法が採用されにくい。
・実績が少ないと利用したがらない官公庁の体質。
・チャンス、試験施工や実験的試みをする場所、機会。
・ライフサイクル、コストの確認が不確定。
・その技術の信頼性、条件の違いとその技術の適用性不明確。（３）
・研究主体が各社の自己負担になっている。成果が見えなくとも研究は必要のため、その時点から厚い支援を検討してほしい。
・開発者が耐久性メンテナンスなどに対しての説明責任が少ないこと。（不完全な製品の売り込みが少なくないこと）
・会検対策が大変等の理由がある。
・発注者が評価出来てないために使えるのに使わなかったり、条件が合わないのに無理に使ったりしているところではないか。
・良い物は早期に取り入れるようにすること。
・現在の常識。

問３
①今後もこの報告会があった方が良いと思いますか？



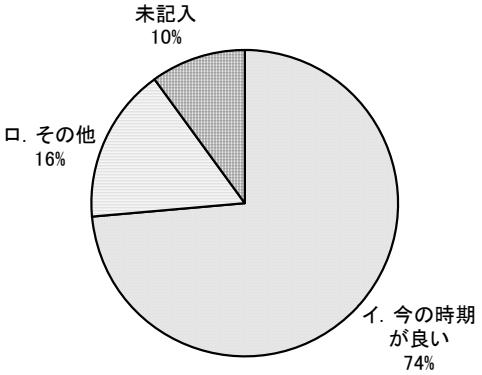
イ．思う	159
ロ．思わない	1
ハ．内容による	15
未記入	14
計	189

②上記①で「ロ．思わない」に〇をされた方はその理由を、「ハ．内容による」に〇をされた方はどのような内容を望まれるのかをご記入下さい。

■「ロ. 思わない」に〇を付けた方
・北陸舗装会議、克雪利雪会議、日本道路会議等があり、これ以上必要ないと思う。

■「ハ. 内容による」に〇を付けた方
・テーマが広範囲になると参加する方も興味が薄れる。
・テーマを絞り込んだ報告会があっても良いと思う。
・テーマ別が望ましい。環境に関する技術等。
・河川系でつかえるものが少なく感じた。
・自主的発表が少ない。試験室等が中心となって社として義務的発表が多い。
現場とのタイアップが少ないのも当然か。
・新工法、新技術の紹介を多く。
・誰が誰に対して技術報告しているかチラシ等では不明。
明確になれば参加者数や参加者の熱意が変るのではないでしょうか
・地域に即したもの。
・同じような内容のシンポが多く、少し整理した方が良いと思う。
・毎回同じ内容の物がよくある。
・理論でなく実務に役立つ技術報告であれば有意義
・未記入（４）

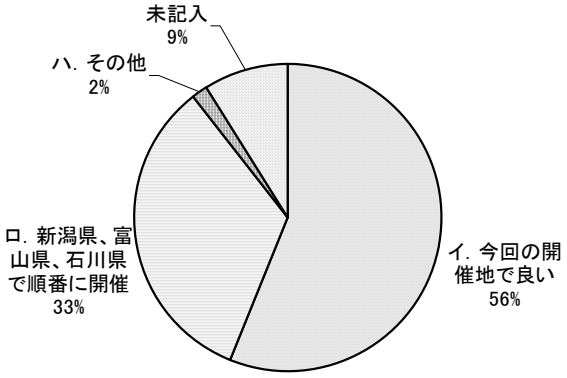
③開催時期はいつが良いと思いますか？



イ．今の時期が良い	139
ロ．その他	31
未記入	19
計	189

その他
- １月（１）
- ２月（２）
- ４月（３）
- ５月（５）
- ６月（５）
- ８月（１）
- １０月（４）
- １～２月（１）
- ４～５月（２）
- ４～６月（２）
- ５～６月（２）
- ６～８月（１）
- ７月下旬～８月（１）
- １０～１１月（１）

④開催地はどこが良いと思いますか？



イ．今回の開催地で良い	106
ロ．新潟県、富山県、石川県で順番に開催	63
ハ．その他	3
未記入	17
計	189

その他
- ホテル新潟（１）
- 建設フェアの開催地に合せる。（１）
- どこでも良い（１）

問４．この報告会の報告形式や会場設営についての意見

①報告時間に関するもの

・テーマ毎の発表時間をもう少し長く取ってもらいたい。20分／件位は欲しい。（４）

・発表終了時間きっちりに終らせるのは時間割上しょうがないが、まとめの一言くらいは言わせてもいいのではないかと思った。

・チン3つで直ぐ止めるのではなくまとめの時間（1分程度）を与えないし、報告が中途半端です。

・学会等の発表と同様に1課題15分の発表時間を取っているが、学会の場合は1つのテーマで2～3発表の場合もあり、連続して聞けば理解できるが、この様な実務発表的な課題は15分では詳細部分まで理解することが難しい。

②報告形式に関するもの

・報告会形式は非常に良い。（３）

・4テーマに分けて、まとめて質問の時間を設けるのは非常にいいと思った。

・画面が2画面なので、どこに座っても見やすくて良かったと思います（第2会場）。

・コンセプト毎にもう少し分割した会場。（２）

・1・2会場同時間発表の報告を片方聞けない状況が生じた。上へ行ったり、下へ行ったりで大変だ。せめて隣りにならないか。

・会場が分かれていて聞きたい会場に移動するシステムはとてもいいと思う。

・発表会場を増やしてほしい。

・パワーポイントを使うことで分かりやすくなった。

・プログラム編成のまとまりが良く、効率的に聴講できた。

・発表後1時間程度のフォーラムを開催し、より突っ込んだ議論をした方が研究課題の進め方に活かされる。

・報告会を2日にしてはどうか。

・1日だけで純技術面の発表会でありスリムにしたら。

③報告内容に関するもの

・分野にやや片寄りが見られる。（２）

・もっと分野毎に分けた方がいいと思われる。（例：道路・河川・砂防・都市計画等）（２）

・リサイクル技術については興味深く聞いた。新工法については、件数が少ないと感じた。

・明日にでも実施できる報告会（例えば盛土施工の厚層化技術）があり、大変勉強になった。

・発表内容も社会ニーズに適したものであると思う。

・別業種で建設業に使えるものを発表していくのが良いと思う。

・発表内容で透水・保水性舗装材と舗装工法の開発に関する報告で、ビデオを組合せた説明があったが大変理解しやすく工夫された説明であったので、今後はこのような方法を取り入れてはどうかと思います。

④記念講演に関するもの

・記念講演と報告会の内容は何の関係もない。（２）

・講演は「地方における公共事業」をテーマにして下さい。

⑤会場設備に関するもの

・パワーポイントの映像施設も素晴らしく、とてもよい環境だと思います。
・画面がきれいで良く見えた。
・音質も良い。（言葉がはっきりしない人は別）
・聞き取りやすく疲れず大変良かった。
・駐車場が有料だけなので大変だ。
・会場の中央部に位置しなければパワーポイントが見づらかった。
・会場内部が非常に分かりにくい。これは、朱鷺メッセの方に問題があると思います。（２）
・会場が広く、スクリーンも見やすくて良かった。
・テーブル、机等があれば良い。（３）
・第一会場、マイクの必要性があったと思う。
・交通が不便なので、シャトルバス等の手配をしていただけると助かります。（６）

問５．その他、この報告会について感じたこと

・アナウンサー（司会者）は、社名・工法名・地名等のアクセントを研究しておくこと。
・会場は建設フェアとの関係がら今回のように同一としたが、このスタイルで良かった。
・発表技術の内容別、会場分けは事前プログラム配布があると良い。
・会場が一杯になる状況での会であって欲しい。
・会場が大きすぎる。（２）
・技術交流は素晴らしいと思います。
・新技術の開発については産官学で行えばいいと思う。
・学識経験者の参加も必要ではないか。
・民間の技術を活かすためには発注者の理解と協力体制が必要と感じます。（５）
・全く必要なし。無駄使いである。
・会場案内が1階で分かりにくかった。
・北陸舗装会議の延長上にあるものと考える。また宣伝色が強すぎる。
・報告会の事項が現実現場に施工され、その結果報告会があれば良い。
・スタッフの皆様ご苦労様でした。

６．実施状況

開会挨拶
北陸地方整備局 企画部長　的場 純一

記念講演
米山観光㈱ 代表取締役社長　土田 新吾氏

記念講演聴講状況

報告会第一会場発表状況

報告会第一会場聴講状況

報告会第一会場質疑応答状況

報告会第二会場発表状況

報告会第二会場聴講状況

報告会第二会場質疑応答状況

閉会挨拶　「建設技術報告会」実行委員長
難波　政行（北陸技術事務所長）

受付状況

アンケート記入状況

アンケート回収状況

報告会場入館状況